

No.	章	節	節名	ページ	意見等	対応・市の考え方等
1	8	2	市民活動支援の推進	第8章-3ページ	単位自治会数は806であり、現状と課題に記載してある「約830の自治会」とは、その他の地域コミュニティが含まれているのか。	自治連合会に加入している自治会が805の他に、未加入の自治会があり、合わせて約830の自治会という表現としております。
2	1	2	観光・レクリエーションの振興	第1章-10ページ	ボートレース事業の一般会計への繰出金額の目標値が1千万円から1億5千万円とかなり増えているが、補足説明等があればお願いしたい。	ナイター開催等により平成29年度以降の売上げが大幅に増加し、繰出金の実績が目標値である1千万円を大きく超えたため、後期基本計画における目標値をそのまま1千万円に据え置く違和感がある状況にありました。今後の収入を見込んで調整・検討した結果が1億5千万円となっております。
3	2	1	農林水産業の振興	第2章-5ページ	情報の発信も大事だが、情報の内容の充実という点を明記すべきではないか。特に、くじらは、商業捕鯨に転換し、「くじらの街下関」の特性を出していかなければならないときに、船の建造の話だけでは弱い。市民を挙げてくじらの街を盛り上げていく内容の充実を入れていただいた方がよいのでは。	商業捕鯨への転換に際し、これまで以上に「くじらの街下関」を全国にアピールしていくためには、発信する情報をより充実したものにしていくことも重要であると考えております。今後も機会を捉えて情報発信することにより、鯨食文化の伝承や鯨食の普及等を推進してまいります。
4	8	2	市民活動支援の推進	第8章-3ページ他	市民活動の支援とあるが、まちづくり協議会による地域のまちづくりと、市民活動の支援の2本立てで、並列して記載されている。これらは有機的に繋がって盛り上がらなければ弱い。市民協働参画という言葉がよく言われているが、市役所が一方的に仕事をするのではなく、市民も一緒になって働くという表現が弱いように思う。市民も行政に参画してもらって動いていくという表現をもっと強めしておく必要がある。今後発生するであろう災害に対する防災力・減災力を作っていくのも、それらの組織が有機的に繋がってこそ実現できる。そういう意味で、取り組むべき事項はほぼ網羅的に書き上げられているが、内容を如何に充実させていくかという視点が弱いと感じた。	市民の行政への参画は重要であると認識しており、第4次下関市市民活動促進基本計画を策定し、引き続き、市民のまちづくり活動への参加を促進するとともに、その支援に取り組んでまいります。あわせて、市民活動団体のネットワークの中心的役割を担う市民活動センターの機能を強化し、市民活動の活性化を図ってまいります。
5					知らせる内容はあるが、どう市民から引き出してくるのかという記載がほとんど無い。市民活動センターなども外部委託になっているが、こうした組織とどのように有機的に繋がって盛り上げていくかという観点で、もう一步記載が欲しい。市民の参画といっても、実際にはパブリックコメント位しか機会がない。世の中も環境も変わってきている中で、例えば市民参加型の防災や環境対策などの推進を通じて協働参画を推進するなどの記載があると、防災活動や環境活動などをされている方の後押しになるのではないかと。	

No.	章	節	節名	ページ	意見等	対応・市の考え方等
6	3	1	子ども・子育て支援の充実	第3章-1ページ他	子どもを保育園などに預ける方が大変多くなっている。現場では、「家で教えるようなことを保育園やこども園で教えてください」「親が出来ないから全てお任せ」という形になっており、危ないものは危ないとしっかり叱ることなどは、経験が豊富な方がするべき。今回、保育士の社会人採用や年齢制限について検討の余地があるとのことで、大変嬉しく思っている。親と子の会話が出来なかったりするのを全部、保育士に任せることになるため、こうした一番基本的なところに力を入れていただいて、下関は子どもがしっかり育つ場所だ、ということを感じていただきたいと思います。	暮らしやすい、住みよいまちの実現に向けて、保育士の確保は重要な課題の一つであると認識しております。今後の施策展開を通じて、子ども・子育て支援の充実に努めてまいります。
7	3	子ども・子育て支援の充実	第3章-1ページ他	部会の中で保育士の確保がかなり議論になった。下関市では他市と同様に、奨学金返還支援という形で市内に就職する人に対する補助を始めたところであるが、企業の就職支援という枠を超え、保育士も対象とした体制が必要ではないかという意見がかなり出た。また、保育士にはできるだけ若い人がなるのが良いのだろうが、非常勤で働いている優秀な方が年齢を重ねてベテランになってから採用試験を受けたいと思っても、年齢制限で受験出来ないということがある。教職員の世界では、年齢制限が50歳近くまで引き上げられ、中堅層も雇用して年齢バランスを取ろうという動きがあるので、部会長の皆さんにもご紹介する。		
8	3	子ども・子育て支援の充実	第3章-1ページ他	下関と人口規模で同程度の兵庫県明石市では、人口が増加している。市長が子育て最優先のまちづくりを行っており、保育所の整備や保育士の確保、こども病院など子育てに関する手厚い支援をすることによって、人口が増えているというケースである。子育て施策は人口問題全体にかかる非常に大きな問題であるため、そういう視点も合わせて提言に反映するようなストーリーが描けたらと思う。		

No.	章	節	節名	ページ	意見等	対応・市の考え方等
9	序論			序論-1 ページ	全体的にぼやっとしており、市としてのハッキリとした意志が見えてこないことを強く感じている。例えば、序論の策定の趣旨において、人口減少問題について触れているが、現状は減少しているので、「なるべく減らさないようにしましょう」という姿勢なのか、それとも「どんどん増やしましょう」という姿勢なのかすら判らない。「自然になるようにしかならない」というイメージしか読み取れない。	<p>本市の総合計画は基本構想、基本計画、実施計画で構成しており、お示ししている後期基本計画は、10年間の基本構想の方向性に基づいて定めるものという点について、ご理解いただければと思います。</p> <p>この基本構想では、「急速な人口減少社会への移行」等を課題として掲げており、こうした課題を踏まえた『まちづくりの将来像』として、第1章から第8章までの章ごとに、その方向性をお示ししており、これらは後期基本計画の骨子となっております。</p> <p>また、引き続き人口減少・少子高齢化への対策を重点的に進めていく必要があることから、「ひとづくり」「しごとづくり」「まちづくり」を後期基本計画の重点取り組み方針として定めております。お示ししているあらゆる施策は、人口減少・少子高齢化への対策に繋がるものであると考えており、後期基本計画の目指すべき方向性となっております。</p> <p>他の自治体では本市のような形ではなく、4～5年の短いスパンに限定した基本方針を示す方式を取っているところもあり、次の総合計画策定時に検討すべき課題であると認識しております。</p> <p>なお、「生き抜く力」とは ○どのような状況においても、主体的に課題を追求する力 ○柔軟に物事をとらえ、的確に判断し、行動する力 ○他者を思いやり、感謝する心や感動する心などの豊かな人間性 ○たくましく生きるための健康や体力 ○世界的な視野をもち、多様な集団において人間関係を形成し、協働する力 と捉え、郷土の自然や人、歴史、伝統、文化に「誇り」をもち、「志」を胸に抱いて社会で活躍する人材を育てていきたいと考えます。</p>
10	3	2	一人ひとりの生き抜く力の育成	第3章-5ページ他	教育についても、「生き抜く力」という強くたくましい言葉を使いながらも、その背景は「子どもは勝手に育つだろう」というイメージであるように感じる。昔は躰、道徳、倫理、指導など、強めな言葉を使ってまっすぐな道に子どもたちを導いていこうという姿勢を持ちつつ、自主性も重んじていこうというところがあった。家庭での考え方やその家庭独自の躰など、子育てに関するアイデンティティがしっかり背骨として確立した上での自主性だと思う。しかしこの文章では、自主性を重んじるということと放任が混在しているのではないか。周りが子どもの個性を伸ばして、良いところだけを育てましょう、好きにして、違ったように育てられても、寛容にみんなで温かく迎えましょう、というイメージを感じてしまう。 今の行政の立場では、強い言葉が使えないことは十分に理解できるが、市民の皆さんが読んで「希望が持てる」「将来的にこうなる」という意志が見えてこないのが寂しい気がする。もっと強い言葉で積極性を出しても良いのではないか。	
11				第3章-5ページ他	具体的な施策は実施計画で取り扱うため、基本計画では具体的な施策は取扱いが難しいことも理解している。ただ、現状のままでは、街の方向として「下関の街はこうなるのだろうか」と頭で思い描けるようには感じられない。「子どもたちはほったらかしても育つ、私以外の方が育ててくれれば良い」という感じを受ける。そうではなく、市全体で子どもを育てようとするのであれば、その子育てのイメージをみんなで描くようなものがあったとしても良いのではないか。	
12					「生き抜く力」という言葉について、前回までは「生きる力」であったが、自分自身がどのような境遇であっても、どのような困難にあっても「生き抜いていく」という意味でグレードアップして、強く自主的に生き抜いていける力を出そうということで修正をいただいた。具体的な部分は今後の実施計画などで出てくるとは思うが、意識としてはそのような意味合いが出ているのは間違いない。例えば教育においては躰をはじめ、何でも学校ですべきという親が増えていく。家庭の中で育てるものと、学校教育の中で育てるもの、社会に出て成長していくものなど、そういうそれぞれの姿勢がありつつも、全体を通して貫くものがあったとしても良いのでは。他の部分についても、アピールできる方針がそれぞれの章にあると、基本計画が力強いものになると思う。	

No.	章	節	節名	ページ	意見等	対応・市の考え方等
13	全般				<p>各章を見ていくと、今の時代の変化に対する戸惑いを感じる。従来の施策を実施しても様々な問題があり、それにどう対処すればいいのか解らない。5年前に計画を作った時点からも世の中が大きく変わっていると思う。それは、村、家、家族に依存していた地域社会が個人へと解体されていることと関係するのではないか。先程の教育の話も、家や家族という繋がりが都市化すると解体されてしまって、個の利益を中心に動いていく社会になってしまう。それで様々な問題が明らかになるが、誰がどこを背負えばいいのかという方向性が掴めていない。そういう時代に変化したことを前提としたまちづくりを行わなければならない。</p> <p>これまでの家や家族に頼らないまちづくりのあり方を模索して、下関らしい単位をどのようなところに作ればいいのか、行政はもとより学校や市民も一緒になって考える場が、今後必要なのではないかと感じている。</p>	<p>時代が進展し、様々な環境の変化が生じている中で、行政と市民の関わり方を模索していくことも必要であると考えております。ご指摘の内容は、まさにこれからの時代の総合計画はどうあるべきか、という問題提起であり、今後検討していくべき課題であると考えております。</p>
14				<p>これまでは、市民の側も「お役所に任せておけば良い」という感覚が強かったので、その延長線上で出てきた部分がこの基本計画に現れていると思う。それでは解決しない課題が市民の身の回りにあり、まちづくり協議会など地域が議論しているようなことが逆に基本計画に入ってくるような、課題の選定や取り組みの方向性なども必要になるのではないか。</p> <p>5年先の新しい時代に向けた市と市民の取り組み方を研究するなどがあるのも良いと思う。</p>		
15				<p>大変意欲的な話が出ているが、そうは言っても基本計画では抽象的なものしか出せない。具体的なものは実施計画で出して対応していけば良いのでは。</p>		